

統合失調症

エドガー・ケイシー療法の示す
統合失調症の原因と治療法

Sample

第 15 号の内容

- 統合失調症の原因は「脳」ではない
- 統合失調症の治療原理
- リーディング原文資料

編集・発行 NPO 法人日本エドガー・ケイシーセンター

はじめに

ここ最近、エドガー・ケイシー療法に関するお問い合わせの中でも、さまざまな精神疾患、とりわけ統合失調症に関するものが著しく増えています。

統合失調症は、2002年8月まで精神分裂病と呼ばれていた精神疾患であり、やや古い情報ですが、厚生労働省が平成11年に行った調査では、全国で67万人が統合失調症として治療を受けているということです*1。また生涯罹患率は0.85%と高く、120人に1人が罹患する決して稀な病気ではありません。米国では統合失調症として精神科に入院した場合、治癒して退院する率は1~25%にしかならず、実に75%から95%は生涯にわたって入院あるいは入退院を繰り返すとされます。

ひと言で統合失調症といっても、これまで私がお相談を受けたものだけでもその状態には相当の幅があり、極度の神経衰弱、不安神経症、対人恐怖症、被害妄想と思われるようなものから、幻聴、幻覚、さらには正真の霊的現象を思わせるものまで様々です。

このように様々な状態を呈する統合失調症に対して、現代医学はそれを一律に脳の疾患と見なし、ドーパミンあるいはセロトニンに作用する抗精神薬で症状を改善しようと試みますが、残念なことに、それらの治療法は症状を一時的に抑えることができるのみで、真の意味での健康を回復させるにはほどよい状態です。

このような事情があって、私もリーディングに残されている統合失調症のリーディングを調べてみたのですが、データベースで検索した段階で、まずその件数の多さに驚かされました。統合失調症は症状にも大きな幅があるために、どの依頼者を統合失調症とするかは判断に迷うところですが、少なく見積もっても60人が、多く見積もれば100人近い依頼者が統合失調症としてリーディングを受けています。これはエドガー・ケイシー療法における統合失調症の治療法の概要を知るには十分な数です。

リーディング本文を調べて行くうちにさらに驚くべき事実が明白になりました。それは、統合失調症の原因として脳の疾患を指摘された人は、頭部への怪我が原因となった人を除けば、皆無だということです。**統合失調症の原因は脳にはない**ということです。その三割近くの人には脊椎への損傷、しかもかなりの人が10年あるいは20年以上も昔の怪我を指摘されているのです。また内分泌腺の不調や憑依霊を指摘されたケースも元をたどれば脊椎への損傷が引き金になっているケースがほとんどですから、そのようなケースも含めれば、**統合失調症の実に半数近くが脊椎の損傷に原因がある**ことになります。このこと

*1 社団法人 日本精神神経学会 (<http://www.jspn.or.jp/>)

を認識するだけでも、統合失調症の原因究明と治療に関する取り組みが違ってくるはず
です。

では、脊椎の損傷がどのような過程を経て突然に統合失調症として顕れるのでしょうか。リーディングの説明をまとめると大まかには次のようになります。脊椎（特に尾骨、仙骨、腰椎の骨盤部位）の脊椎が何らかの理由によって損傷を受けると、脳脊髄神経と自律神経の協調がうまく行かなくなり、そのために、消化器官ならびにライデン腺（ライディック腺）と性腺が正常に機能できなくなります。それが長い年月のうちに他の分泌腺に影響し、そこに外的なストレスや遺伝的素因が加わることで、ついに脳の中の松果腺が正常に働かなくなってしまい、さまざまな精神障害を起こすのです。

当然のことながら、ケイシーはその根本原因を治すことを目指します。

脊椎の損傷が原因になっているケースでは、オステオパシー（場合によって穏やかなカイロプラクティック）によって脊椎の問題を矯正します。既に内分泌系に障害が及んでいるケースでは電気治療法（ほとんどのケースでウェットセル装置、また一部ではインピーダンス装置）とオイルマッサージがそれに追加されます。また憑依霊が原因になっているケースではバイオレットレイと呼ばれる高電圧の静電気発生装置で脊柱に電気を流すことが勧められます。

これらの治療を忍耐強く持続的に行うなら、たとえそれが発症後 10 年、20 年を経ていようとも、かなりのケースは治癒可能であるとしています。

これまでほとんど不治の精神疾患であると見なされてきた**統合失調症に治癒の希望がある**ということ——この福音が多くの人に宣伝され、これまで統合失調症で苦しみにあった方々に、またその苦しみと共に生きていられた方々に治癒の喜びがもたらされますことを心より願っております。

なお、ケイシー療法による統合失調症の治療に関しては A.R.E. のデビッド・マクミラン氏 (David McMillin) による下記の優れた著書があります。さらなる研究を求められる方はぜひ同氏の著書に取り組まれることを強くお勧めします。（書籍としては絶版になっていますが、電子ブックとして同氏のサイト*2 から購入可能です。）

- The Treatment of SCHIZOPHRENIA – A Holistic Approach based on the Edgar Cayce Readings (1991) Lifeline Press by David McMillin
- Case Studies in SCHIZOPHRENIA (1995) A.R.E. Press by David McMillin

2007 年 11 月 25 日

日本エドガー・ケイシーセンター
光田 秀

*2 <http://www.mcmillinmedia.com/catalog/catalog.html>

第1章

統合失調症の原因は「脳」ではない

統合失調症の根本原因は「脳」にはない。エドガー・ケイシーのリーディングで扱われた約140件のケースを調べる限りにおいて、このことは大いに強調されるべきことであると思われます。なぜなら、現代医学はまさにこの「脳」に統合失調症の原因を求め、それがために必然的に治療は根本原因に届かず、かえって多くの患者の状態を慢性化・難治化させていると考えられるからです。

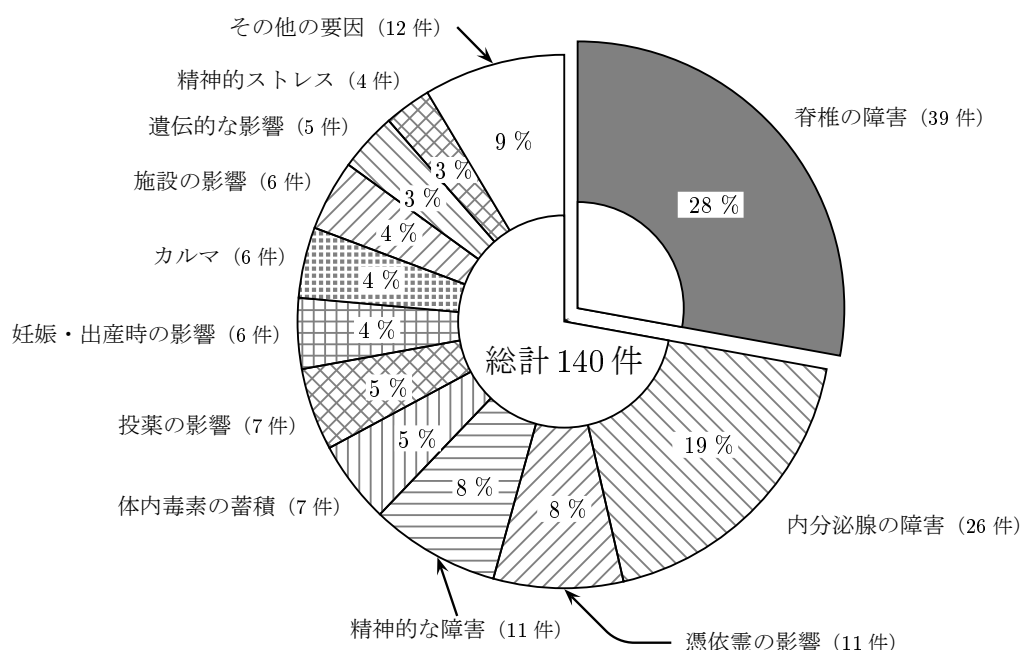
今回のニュースレターを作成するにあたり、統合失調症を扱ったと思われるリーディングの中から、その多様性を示すのにふさわしいと思われる88件を選んでその原因とリーディングによって勧められた治療法の一覧表を作成しました。この表を調べるだけでも、リーディングが統合失調症に対してどのような診断と治療法を述べているか、その概要を知ることができます。

「脳」に原因がないとするなら、ケイシーは統合失調症の原因をどこに求めたのでしょうか。これについてはA.R.E.で長年精神疾患に関するケイシーリーディングを研究しているデビッド・マクミラン氏によってまとめられた統計データがありますので、それをグラフでご紹介いたします。

このグラフに示されているように、ケイシーの指摘した統合失調症の主要原因としては「脊椎の障害」が28%でもっとも多く、次いで「内分泌腺の障害」が19%、「憑依霊の影響」「精神的な障害」がそれぞれ8%、「体内毒素の蓄積」「投薬の影響」がそれぞれ5%となっています。

これらのリーディングをさらに詳しく調べると、内分泌腺の障害や憑依霊の影響などを指摘されているケースにおいても、何らかの形で脊椎の障害が関わっているケースがほとんどであり、そのようなケースを考慮すれば、統合失調症の実に半数近くが、脊椎のトラブル（中でも尾骨、仙骨、腰椎などの骨盤部位に多い）に関連していることになります。重要なことなので繰り返し申し上げますが、**統合失調症の半数近くが脊椎の損傷に原因がある**とされたのです。

統合失調症の主要原因



出典：David McMillin, (1991). *The Treatment Of SCHIZOPHRENIA*, Lifeline Press

しかも、その脊椎の障害はかなりのものが、本人もすっかり忘れていたような何年前のものであったり、場合によっては10年、20年前のもの、さらには出生時に作ってしまった脊椎の歪みなどが含まれているのです。

たとえば、当時 47 歳の郵便局長であったある男性は、統合失調症を発症したために休職を余儀なくされていましたが、ケイシーのリーディングで次のように告げられました。

(問) もともとの原因は何だったのでしょうか。何が現在の状態を作り出したのでしょうか。

(答) 氷の上で転び、背骨の末端の尾骨を怪我したことだ。

(問) 私の頭痛の根本原因は何ですか？

(答) それらの怪我の反射が、松果腺中枢に圧迫を作り出しているためだ。(1513-1)

リーディングを受けた当時精神病院に入院していた 18 歳の女性は、幼児期に転んだことが現在の病気を引き起こしたと言われました。

(問) この人の症状の元々の原因は何だったのでしょうか？

(答) 3 歳半から 4 歳の頃に転んで尾骨を怪我したことである。(2721-1)

38歳の女性は、当時精神病院に入院し、ショック療法などを受けていましたが、彼女に対してもケイシーは尾骨の障害が根本原因であることを指摘し、それが実に14歳の時に氷の上で転んだことであると告げました。

（問）尾骨への圧迫はどうして生じたのでしょうか。

（答）14歳の頃に、この人が氷の上で腰を強く打ち付けたからだ。（3641-1）

脊柱の障害は出産時、さらには妊娠時においてすら生じることが指摘されています。精神の発達が明らかに遅れていた11歳の少年は、逆子で生まれたために尾骨と仙骨に圧迫を生じ、それがために成長を司る松果腺の正常な反応が阻害されたと言われました。

これらの状態は出産時に始まった。というのも、この人は逆子で生まれ、足から生まれた。そのために尾骨と仙骨に圧迫を生じ、それが松果腺の正常な反応を阻害するようになったからである。（5014-1）

これらのことは、精神に異常に気づいたなら、まずは脊椎の損傷の有無を調べ、脊椎の矯正を試みることがきわめて有望であることをわれわれに教えていると言えます。末尾の一覧表を見ていただければ、実に多くのケースでオステオパシーあるいはカイロプラクティックによる脊椎矯正が勧められていることが納得されるでしょう。

日本の精神科で脊椎の重要性が認識され、脊椎を正しく矯正する技術が普及するならば、それだけでも多くの人々が統合失調症から完全に回復されるのではないかと期待されます。実際、ケイシー存命中には米国ミズーリ州にオステオパシーによって統合失調症を治療するスティル・ヒルドレス・オステオパシック・サナトリウム（Still-Hildreth Osteopathic Sanatorium）と、きわめて恵まれた治療環境を有するサナトリウムがあり、オステオパシーによる整骨を中心にしたホリスティックな治療によって統合失調症に優れた成果を上げていました。リーディングもしばしばこのサナトリウムで治療を受けることを勧めました。

またカイロプラクティックにも同様の施設がケイシー存命中に存在していました。アイオワ州にあったフォレスト・パーク・サニタリウム（Forest Park Sanitarium）とクリアビュー・サニタリウム（Clear View Sanitarium）がそれです。これらの施設においても精神疾患の患者を主たる対象に、カイロプラクティックによる整骨を中心にした治療によって優れた成果を上げていました。

残念なことに、これらの施設は財政的な理由あるいは米国における医療制度の改変に伴い、20世紀の中頃までには精神疾患を専門に扱う治療施設としては機能を停止してしまいました（1922年に設立されたForest Parkは1959年に、1926年に設立されたClear Viewは1961年に、1914年に設立されたStill-Hildrethは1968年にそれぞれ閉鎖）。誠に残念なことであります。